

# 低コストで効率的な造林作業の普及に向けて

根釧西部森林管理署

## 【現状・課題・目的】

主伐期を迎え再造林地が増加する中、造林の労働力は減少している。

釧根地域は、林業施業地が比較的平坦な地形を成すところが多く存在し、大型機械等による下刈などの保育作業をすることが可能である。

振興局も下刈作業の軽労化のため機械の導入を進めている。

## 【これまでの取り組みや成果】

平成28年度は、厚岸町森林整備計画実行管理推進チームより、主伐期を迎えた、防風保安林の伐採方法、主伐実例の紹介や林帯幅の狭い防風林の取扱についての現地検討会開催要望もあり、根釧東部森林管理署と協働で現地検討会を開催した。

H29年度の市町村整備計画を樹立する上で参考になったとの複数の意見を得られた。

## 【平成29年度の取組結果・成果】

- ① **下刈作業の機械化テストへの積極的な協力**  
当署のフィールドにおいて振興局が主催する「2017機械を活用した造林作業の軽労化モデル検討会」が開催され、軽労化・効率化に向けた検証が行われた。  
また、使用した森林作業道が機器の搬入や車両による人送が可能となり効率性が上がる事にも理解が得られた。



- ② **大型機械地拵え及び一貫作業システム現地検討会の開催**

根室地域林政連絡会議にも取り組みの共有を呼びかけ二度の現地検討会を開催した。

地表を捲る大型機械地拵えを実施する事により、作業の軽労化が可能となることや、下刈回数が省略できる可能性があることに期待を高めた。今後は下刈回数の省略を検証する現地検討会の開催の要望もあり、次年度以降検討会を開催する。



- ③ **様々な組織との連携した現地検討会の開催**

今年度は、釧路市や振興局、道局が主催する検討会を当署のフィールドで開催した。クラッシャーによる地拵えや、自動植付機による植付実演など、未だ緒に就いたばかりの造林の機械化テストではあるものの、参加者からは期待の高まる声もあった。

今後も国有林フィールドでの開催要望があった場合は、可能な限り協力する。



## 【今後の取り組みで目指すところ】

現時点で、大型機械地拵え箇所全ての検証は出来ていないが、試験的にH28年度に実施した箇所からは、初年度と二年目の下刈2回刈のうち1回刈迄は確実に省略できることが確認出来た。次年度は検証する検討会を開催することとする。

今後においても、造林の担い手不足は継続する一方、造林事業は拡大していく状況は変わらないものと想定できる事から、根室地域とも連携し、更に取り組みを強化し、釧根地域が先進的造林作業の情報発信基地となるように取り組む。

## 【今後の目標】

国有林が実施する大型機械地拵えについて早期に実施後の検証を図り、地域への定着を図る。

